

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2021 秋
vol. 29



緑の森の中をぐんぐん進む、昆虫博士キッズたち。どんな昆虫に出会えたかな？（君津市 千葉県立君津亀山青少年自然の家）



千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます。

も く じ

□不易流行	…2	□千葉県立君津亀山青少年自然の家	…7
□ろくすけ日和	…3	□南房総市大房岬自然の家	
□千葉シニア自然大学	…3	千葉県立大房岬自然公園	…8～9
□現場レポート	…4～5	□ちば・体験活動ネットワーク	
□受託・ネットワーク事業	…6	団体紹介・会員校フィールド紹介	…10～11
		□千葉自然学校スタッフ紹介	…12

不易流行

理事長 久保田 康雄

暑い夏と共に始まり、雨の中閉会した東京オリンピック・パラリンピック。季節の変化を感じながら観戦した夏の大会でした。コロナ禍の中、大会開催に対する賛否の声があがりましたが、切磋琢磨する選手の熱い想いと活躍に大きな感動をもらい、観戦できて良かったなあと個人的に思った熱い夏でした。

千葉自然学校では、蔓延防止措置と緊急事態宣言が発令される中、夏のキャンプは定員を半分にし、感染防止対策を行いながら実施することができました。子どもは、自然の中で、思う存分エネルギーを発散し、楽しく、有意義な時間を持つことができたのではないかと思います。詳細の報告については、各担当者より後述いたしますのでご覧ください。



さて、最近、テレビや新聞、雑誌などでSDGsの話が頻繁に目にするようになりました。SDGsに関する活動は、持続可能な社会と未来を築くための青写真を描く活動です。それは、2030年までに世界中の人たちが幸せに暮らせるように、今から目標を立てそれに向けて努力していくという取り組みです。たとえば、地球温暖化の問題でいえば、CO₂が増えると地球が温暖化し、砂漠化が進んだり、海水面が上昇したり、気象変動を引き起こし、大雨や洪水が各地で起こるようになります。そうならないように、今からエネルギー改革や森林再生やフードロスの軽減などの対策を講じましょうということです。SDGsの目標は全部で17あり、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。

私たち千葉自然学校でも、キャンプや自然体験活動を通して、SDGsを推進する活動に取り組んでいます。特に14番目と15番目の目標「海の豊かさ・陸の豊かさを守ろう」について、プログラムを進めています。海や陸の自然を守るためには、子どもに、海や森で直接体験をしてもらうことが重要だと思っています。自然の中での直接体験を通して、自然の素晴らしさや感動を肌で感じ、「自然は大切なんだ、必要なんだ」と実感するのです。そして、自然を大切に思うことが自然を守るための行動につながるのではないかと考えています。

一方、SDGsの活動は、多様性が重要視されています。多様性のある社会は強いと言われていています。新しい発想やイノベーション（変革）のきっかけになるからです。自然体験活動では、その多様性を認めやすい環境にあると考えられています。キャンプでは、山や川、森や海、雪や雨など多様な自然環境の中で実施されることに加え、多様な参加者がおり、それぞれ考えていること、育ってきた環境、価値観、習慣などが違ってきます。自然の中での共同生活や自然体験プログラムを通して、それぞれ違いがあることを認め、個人を尊重することで多様性を受け入れるようになります。そのような過程の中で、人を大切に思う心、自然を大切に作る心、自然を守る行動が育まれていきます。

千葉自然学校では、これからも子どもからシニアまで幅広い年代を対象に、自然から学び、自然を活用し、地域に根差した活動を行っていきたいと思います。今後とも、千葉自然学校を応援くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。

また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和 『やんごめ』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

コロナ禍の中で実現しませんでした。あるテレビ局から「新米」をテーマに米を使った郷土料理を紹介したいと取材の依頼がありました。日頃から郷土料理が忘れ去られて行くことをとても残念に思っていたので、早速、近辺の料理上手に声をかけて相談しました。あげられたのは「やんごめ」、「ごんじゅう」と「太巻き祭り寿司」でした。「やんごめ」は、平久里地域では家によって違いがあるものの、お盆に「やんごめ食い食いござらっしゃれ、水を飲みのみ…」と唱えながら迎え火を焚き、仏様をお迎えします。炒り米（うるち米ともち米）とゆで小豆を砂糖で炊いた甘いお赤飯のようなものです。「や一米」ともいい、本来は田植えの頃、苗作りで余った粃を干して、殻をとり炒り米にして、そのまま砂糖や砂糖蜜を絡めておやつに食べたもので、農山漁村文化協会発行の日本の食生活全集で調べても、ほとんどの県で食べられています。ただ、お赤飯のような「やんごめ」は、千葉県と上記の本で各県を調べた限りでは、鳥取県の米子に見られました。本来は田植え時期のものが、どうしてお盆に食べられるようになったのだろうと不思議でした。でも昭和30年代の機械化以前の農作業を考えると、田植えは「手間替え」等集落で手伝いながら終わるのは6月頃、次に麦刈りが入って農閑期になるのはお盆前後。ほっと一息ついて疲れた体を癒やすのに、保存の利く炒り米、小豆、そして貴重な砂糖をたっぷり入れて作られたのではないのでしょうか。家族でともに食べ美味しかった記憶を、お盆に仏様と共有するようになったのでは…と勝手に想像しています。

「ごんじゅう」にも、「太巻き祭り寿司」にも、それぞれにものがあります。

この秋から「ろくすけ」の事業として、郷土料理を語る会など開催し、郷土料理にまつわる話、レシピを整理しまとめておきたいと考えています。コロナが収まって、里山で料理を持ち寄る提げ重パーティーが再開できたら…と楽しみにしています。

(文：遠藤陽子/サニー)



千葉シニア自然大学 ～自然と俳句講座～

千葉シニア自然大学では開校以来、本科の他にテーマを絞った講座として専攻科という名称でいろいろなコースを開講してきましたが、令和4年度からは本科と専攻科を統合、再編成した講座としてイメージチェンジさせます。こうした動きの中、「自然と俳句」講座は、自然をテーマに学ぶシニア大学の講座の中にあって、俳句の作句活動を行いながら修行する場であり続ける特異な講座として存続してきました。いわば講座の存在自体が俳句の創作活動を行う結社のような存在になっています。

講師は平栗瑞枝先生。俳人であり、各地の巨樹や古木を訪ね歩くのが趣味の先生です。俳句の世界で培われた豊富な知識と長い自然との係りから紡ぎだされる言葉と話は、聞く人を惹きつけます。

高齢の受講生が多いため、できた作品には時に自分の老いを諧謔的に詠んだ句などを見受けます。そんな句が句会の場で詠みあげられると、平栗先生は「私そういう句は余り好きではありません」と講評はされずにストレートに作者をたしなめられることがあります。

指摘された作品の作者は戸惑うことになりませんが、体は老いても精神は若くありたいと願う女流俳人の生き方に気付いて、そのような句は二度と作らなくなります。

「何故、自分は俳句を詠むのだろうか？」ときっと自問しているであろう教え子に対して、「たった一句でよいから生きた証を残しましょうよ」と句会の席上で呼びかけられます。これは講座を受講する者にとってエールの言葉となり、人の生き方への励ましともなります。こんなやりとりが行われているのがこの講座の魅力といえます。



(文・写真：事務局・浅井信)

7月～9月 主催事業現場レポート

子ども

キャンプがはじめてでも大丈夫です!

アウトドアキッズ ～テントに泊まろう～



7/24(土)～25(日) 千葉県立君津亀山青少年自然の家
テント泊/アウトドアクッキング ナイトハイク 水遊び

23名の子どもとドキドキわくわくのテント泊。テント泊は初めてという子どもがほとんどでした。キャンプのはじめは緊張のドキドキ顔をしている子どもが多かったのですが、みんなでご飯を食べて、外で遊んで、仲間と一緒にテントを立てて…なんてことをやっていると、ドキドキ顔がワクワク顔に変わっていました。たくさんの初めてのチャレンジした2日間でした。



2日目は手作り水鉄砲で
水遊び!
みんなでうて～!!

(文: 庄司達哉/しゅれっく)

子ども

海遊びシリーズ第一弾!とことん海遊び!

スーパーマリンキャンプ



7/30(金)～8/1(日) サンセットビーチインかわな
民宿泊/波乗り 釣り 海遊び たき火

暑さも本番を迎え、海には最高の季節です。民宿の目の前は海!初めての子もライフジャケットをつけたら海へGO!ゴムチューブに乗ったり、でんぐり返しをしたり、思いっきり海で遊びました。朝一の釣りでは珍しい魚も釣れ、美味しくいただきました。夜にはマシュマロを焼き、星空も観察できて、毎日が満足度100%の2泊3日でした。



やっぱり夏は海だね♪
穏やかな海なら
みんなで楽しめるぞ!

(文: 高田拓実/たくやん)

子ども

広い公園内で夜を明かすビパークにも挑戦!

サバイバルキャンプ



8/5(木)～7(土) 大房岬自然の家 大房岬自然公園キャンプ場
施設泊/岬探検 釣り たき火

台風の影響もあり、目まぐるしく変わる天候の中でのキャンプとなりました。まずは岬に探検に出かけ、飛び込みや生き物観察を中心に遊んでいましたが、うねりが入るようになり撤収。

翌日は場所を変え別の浜で生き物探し。ビパーク準備では、薪の調達、火起こし・調理、タープ設置と、みんなで協力して作り上げた3日間となりました。



最高の夕焼けが
待っていた…
大房岬最高です♪

(文: 佐藤昭仁/アリ)

こども

大人気子どもプログラム! 昆虫博士キャンプ



8/9(月祝)~11(水) 千葉県立君津亀山青少年自然の家
施設泊/虫取り ライトトラップ 昆虫鑑賞作り 昆虫標本作り

君亀の森に昆虫好きが集まりました。虫網を振ったり、木をひっくり返したり、トラップを仕掛けたりと色々な方法で虫取りを実施。夢中になって森の中を駆け回りました。また、昆虫標本づくりではひとりひとり命の大切さと向き合い、真剣に取り組みました。昆虫に触れ、学び、様々なことを感じた虫づくしの3日間でした。

夜の森に入ってライトトラップ!
色んな虫たちとの出会いがありました。



(文：長瀬詩緒里/ちゅん)

こども

ペルセウス座流星群を眺めよう!! 星空キャンプ ~ペルセウス座流星群~



8/12(木)~13(金) 千葉県立君津亀山青少年自然の家
施設泊/プラネタリウム鑑賞 たき火 星形クラフト

天候が厳しい中での開催でしたが、プラネタリウム鑑賞で星の勉強をしたり、星空を投影するコックピットにも入場することができました。夜はたき火を囲み、翌日は星型のペンダントを作りました。

今回の事を思い出して、ぜひ本物の星座を楽しんでもらえたらと思います。

普段は入れない
コックピットに入ったよ☆



(文：佐藤昭仁/アリ)

こども

古民家ろくすけ泊・民宿泊で大満足!! 夏の里山里海大冒険



8/19(木)~22(日) 古民家ろくすけ サンセットビーチインかわな
古民家・民宿泊/アウトドアクッキング 海遊び 星空観察 たき火
ずいか割り

山では思いっきり駆け回り、川では夢中で生き物観察、夕飯のアウトドアクッキングはお腹いっぱい食べました。

海遊びは波に向かってダイブ!
太陽の下で子どもの笑顔が弾けて
いました。

みんなで山も海も
とことん遊びつくした
夏の冒険でした!



(文：佐藤昭仁/アリ)

こども

まだまだ夏は終わらない海遊びシリーズ第二弾 波乗り・海釣りキャンプ

9/4(土)~5(日) サンセットビーチインかわな
民宿泊/海遊び たき火 海釣り



夏の残暑を期待しましたが、今年天候は雨ばかり…でも、海好きの子どもはへっちゃらで海に飛び込んで行きます。潜ってヤドカリを捕まえる子、ただただ浮いている子。それぞれの過ごし方で海を満喫。釣りで一番の大物は唐揚げとなり美味しくいただきました。

雨でもへっちゃら!
海があれば最高です♪



(文：佐藤昭仁/アリ)

《受託・ネットワーク事業》



オンラインでレクゲーム！（全千葉薬品労働組合・入組式）

春に株式会社千葉薬品に入社（新卒、中途採用）した方を対象に、毎年この時期にイニシアティブゲーム指導とバーベキュー交流会のお手伝いをしています。今年はコロナ禍を鑑みて、オンラインで計4回の開催、114名にご参加いただきました。自然学校では約30分のアイスブレイクゲーム枠を担当。マスク着用が当たり前となりオンライン会議・研修が多くなったご時世だからこそ、「表現を豊かに」をキーワードに遊びを展開していきました。

「頭の上に大きなオッケーサインを作ってみましょう！」みんなで一斉にやってみます。×のサインや他の表現方法も出し合い、言葉なくとも伝えられることを体感。ジャンケンゲームでは、勝ち負けの感情を決めた言葉とポーズで表現。皆さん声を出して身体を動かし、徐々に緊張がほぐれていきました。

簡単なレクゲームを通じてですがお互いを知るきっかけとなり、更にはコミュニケーション効果への気づきが、より良い人間関係・職場づくりに繋がりましたら幸いです。

（文：橋口和美/たこはち）



海と日本プロジェクト in 千葉県 B0-S0 海のめぐみ発見隊

海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合、海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進するプロジェクト「海と日本プロジェクト」。千葉自然学校が千葉県版の体験コーディネートを請け負って5年目となります。

今年は16名の子どもと「千葉の海の安全や環境を守る仕事の調査」をテーマに、銚子と南房総に行きました。銚子では海上保安庁の巡視船や灯台見学と銚子海洋研究所のイルカと海洋ゴミのお話、南房総では海と森の関係やライフセービング体験など頭も身体もフル回転させた体験となりました。



最後は班ごとに分かれて体験した内容を新聞記事にまとめ、銚子電鉄の電車の中に掲示するポスターの作成を行いました。普段慣れていない作業で苦戦している子もいましたが、新聞記事もポスターも、体験を通して海の安全や環境を守る人の想いを受け継いだ内容となりました。

体験した子どもだけでなく、新聞やポスターを目にした方に、千葉の海へ想いを馳せてもらえれば幸いです。

（文：山崎大地/だいすけ）

銚子電鉄 ポスター掲載期間 11月1日（月）～30日（火）
※ポスターが掲載されている車両の運行状況については
銚子電鉄（0479-22-0316）へお問い合わせください。



教育旅行のコーディネートを承っています！

今回の新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策で、多くの宿泊学習が中止や延期、日帰りへの変更を余儀なくされました。また、遠方への移動が難しくなり、千葉県での体験を希望される学校が増え、内容のご相談を受ける機会が増えました。

千葉県は、変化に富んだ豊かな自然に恵まれ、地域それぞれに特色ある文化や生活があります。自然や地域に触れ、人に会い、他の地域を知ることで、自分の地域に関心を持つきっかけになればと、また、地域の人から話を聞くことで、様々な地域課題に向き合い挑戦する大人の背中を見てもらえればと、そんな想いで地域と学校を繋ぐコーディネートの仕事をさせていただいています。パッケージではなく完全オーダーメイドの教育旅行を、先生と、旅行会社の方々と共に、子どものために考えていきたいと思っています。

（文：佐藤玲子/かつを）



～ きみかめ便り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪



千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家 所長 庄司達哉

「上総掘り×SDGs」

皆さんは「上総掘り」という井戸掘りの技術を知っていますか？
上総掘りは小櫃川や小糸川の流域を中心に、江戸から明治にかけて考案された井戸掘りの技法です。この上総掘り、どんな特徴があるのでしょうか？



「上総掘りのココがすごい！！」 ①人力で掘れる…動力などを使わずに、数人の人手があれば掘ることが出来ます！ ②竹の特性を活かしている…竹は横からの力には弱いですが、タテにかかる力には強いです。竹のヒゴを使うことで500mもの深さまで掘ることが出来ます！③檜(やぐら)は現地調達で…特別な材料を使うことなく竹や丸太があれば、上総掘りの檜を作ることが出来ます！

近年、日本では消滅寸前だった上総掘りの技術は水不足に悩む東南アジアやアフリカなどの開発途上国において再び脚光を浴びています。SDGsのゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」へ大きく貢献できる技術です。上総掘りの檜が常設されているきみかめで、井戸掘り体験してみませんか？

きみかめ掲示板

【イベント報告】

7月11日(日) きみかめ森のようちえん②夏の森遊び♪

今回夏の森遊びということで、きみかめの自然の中で水遊びをしました。水鉄砲で打ちあったり、水風船を割ったり、びしょびしょになって思う存分はしゃぎました。他にも釣りコーナーで釣りゲームやシャボン玉遊びも実施。シャボン玉はオリジナルのシャボン玉道具を作って、親子で楽しみました！きらきらの笑顔の子どもを見てみると、水しぶきやシャボン玉と一緒に暑さも飛んでいくようでした。



長瀬

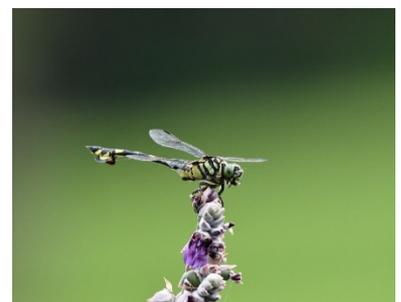
【自然情報】

秋のトンボ

夏が終わり、秋風が涼しくなり過ごしやすい季節になってきました。きみかめでは一年を通して、様々な種類のトンボをみることが出来ます。中でも夏から秋にかけての季節はトンボの種類が多くみられるため、トンボは秋の季語にもなっています。

皆さんの身近ではどんなトンボがみられますか？

武田



～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。



南房総市大房岬自然の家 所長 神保清司

土中環境という言葉聞いたことがありますか？文字通り地面の中のお話です。普段生活していて目に見えない所を理解するのは難しいですよね。しかしながら、そこに気配り目配りをしながら生きていかないと、様々な問題が起きてしまいますよ？という話です。台風やナラ枯れ病に襲われた森の木々を元気にするために、地面を柔らかくして水と空気が土中にも流れる手助けをする森づくり土づくり活動を始めました。



千葉県立大房岬自然公園 公園長 山口亮介

先日公園内の草刈りをしていると、思いがけずカメを発見。ミシシippアカミミガメでした。公園に生息していないので、誰かが連れてきて放したものの様です。周りに水場の無い場所だったので、カメはかなり弱っていました。放した人がどういう考えでこのカメを公園に放したかはわかりませんが、どんな理由でも決してやってはいけない事です。このカメは現在、ビジターセンターで保護をして、生体展示として元気に暮らしています。外来種の問題やペットの飼育モラルの問題といったものを、来館する方が考えるきっかけになればと思います。



株式会社 体験と健康 料理長 松田光央

(南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂 運営)

昨年度は緊急事態宣言で9月の短い期間しかお客様がお見えになりませんでしたが、今年度は4月からたくさんのお客様に来ていただき大変ありがたいです。ただ、今までの食堂とがらりと雰囲気が変わったのが利用者の会話の無い食事でした。食事とは、食事をする者同士がおいしいと伝えあうだけでもよりおいしく感じる事ができるものです。

しかし黙食をしている子どもを見て、料理の味付け以上のスパイスをなくした気分で料理を出し、食事を楽しめているか不安でした。

しかし、後日学校から送られてきた子どものお礼状に「料理がおいしかったです。」「ありがとうございました。」と書いてあり、非常に救われた気持ちになりました。

今後もまだまだ大変な時節が続く、色々なことが起こるかもしれませんが、利用してくださる方々においしいと思っただけの食事を提供していきます。



taibusagram

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します!



Taibusa-misaki

夏から秋へ



9月に入り暑さが少し落ち着いて過ごしやすい季節がやってきました。セミの鳴き声も少なくなり、代わりに夜にスズムシの音がよく聞こえてきます。

自然の家の前に植わっている、大きな実をつけた栗や葉が紅く染まった木を眺めていると、玄関前をすーっと飛んでいくオニヤンマがいました。夏の代名詞ともいえる昆虫が紅葉を背景に飛ぶ姿に、夏から秋へ季節はめぐっているのだと強く感じました。

感染症やその影響で大変なことはかりで焦りや不安が心の中で大きく重くなっていましたが、じんわりと変わっていく季節に、自然の雄大さを感じて心が落ち着きました。皆様もぜひ、自然の中で季節の移ろいを感じてみませんか?

#オニヤンマ #紅葉 #季節の変わり目 伏谷



いいね! 850件

たいぶさ岬掲示板

イベント
報告

コーステアリング

今年も大房岬の海岸を冒険するコーステアリングを実施しました。7月～8月で7回行うことができました。水中洞窟のようにになっている穴をくぐってみたり、潮の満ち引きで潮だまりに閉じ込められたイワシの群れを観察したり、突き出た岩から飛び込んでみたり、参加された皆さんに大房岬の海を満喫していただきました。 伏谷



イベント
報告

岬の楽校 畑づくり

小雨の中でしたが、どろんこになりながら、土を耕し、畝を作り、マルチをかけ、サツマイモや夏野菜の苗を植えました。大人が細かく言わなくても、自分たちで役割分担をして協力しながら進めていく姿が印象的でした。

畑作業を通して、野菜を育てることの難しさ楽しさ、食べ物を大切にすることを感じてもらえたら嬉しいです。 花嶋



生きもの
紹介

昆虫界の穴掘り名人「ケラ」

ケラは、田んぼのそばなどの湿った地面に穴を掘って過ごしています。なので、あまり姿を見ることはできませんが、地面から「ジージー」という鳴き声が聞こえます。秋はケラが新しい住処を探しに地面から出てくることが多いので、発見するチャンスです! 運よく見つけたら、地面を掘るための前足など、じっくり観察してみてください。 清水(旭)



《ちば・体験活動ネットワーク》

千葉を元気にする 会員校をご紹介！

千葉自然学校は、ネットワーク型自然学校として

『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、『千葉自然学校ネットワーク会員校』としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。

県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

さんむ・アクションミュージアム

木下 敬三さん



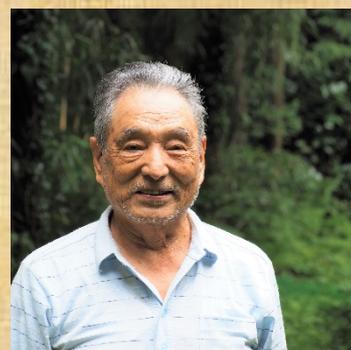
里山



自然体験



キャンプ



さんむ・アクションミュージアムでは山武市の山林を「果樹園プレーパーク」にしようと活動しています。その他、ホテル観賞やツリークライミングなど勢力的に活動中。今回はイベントの様子を取材してきました。

【団体を立ち上げた経緯】

木下さんがこの活動を始めたのは約25年前。「里山での子どもの遊び場を作りたい」という思いから、売り出されていた山林を購入し、さんむ・アクションミュージアムを立ち上げました。

現在は森や田んぼなど合計2haの土地を管理し、古代米やマコモダケの栽培、また「果樹園のあるプレーパークを作りたい」という思いがあり、園内はレモン、カキ、ウメ、クリ、スモモ、グミなどの果樹が多数ありました。他にもサクラの木があり、花の時期はあちらこちらに花が咲きほころんでいるそうです。

【参加者で作るキャンプ】

今回の取材ではちょうどキャンプイベントがあり、2組のご家族が参加されていました。キャンプは「手作り」がコンセプト。水は持ち込み、お手洗いは仮設などなかなかワイルドなキャンプですが、むしろ参加の皆さんはその不便さを楽しんでいるようでした。また、やりたいことは何でもチャレンジ！今回はちょうど栗の季節。実った栗の実を棒で落としたり、足でイガから実を出したりと栗拾いを楽しまれていました。栗拾いの傍ら、木下さんと子どもは栗のイガの構造調べ。虫眼鏡を覗いて熱心に研究していました。

そしてお昼ご飯は流しそうめん。こちらも参加者で竹を割って、流し台や器や箸も手作り。竹の高さや、水量の工夫、流し方などもみんなで相談しながら行い、ご家族でにぎやかなおいしいお昼ご飯となりました。

夜は燻製やバーベキュー、翌日はミツバチの採蜜などバラエティに富んだキャンプになったようです。

流しそうめん作り。お昼ご飯のために頑張れー！



クリのイガ一つでも声掛け次第で遊びや勉強に繋がるそうです



【今後の展望は】

現在は敷地内にセミナーや雨天プログラムが出来る小屋を3基建設予定。さらに今後は竹ドームを使ったキャンプイベントや夏のホテル観察などを計画と「里山ビジネス」を模索しているそうです。

草刈りや伐採など体力勝負の作業ではありますが、生き生きと活動されている木下さんの活動が荒廃していく里山を元気にしていくと実感できました。

取材：山崎大地（だいすけ）

特定非営利活動法人ちば里山センター 理事 赤松 義雄さん (広報担当)



里山



林業



保全・整備



人材育成



生物



自然観察

ちば里山センターは、平成16年9月17日、千葉県里山条例の具体化を目指し、18の団体が協力をして設立された任意団体で、平成22年にNPO法人格を取得しました。里山で活動している団体や、里山に関心がある県民・企業など、様々な立場の人々が、交流や情報の共有を通して、それぞれが持っている技術や知恵、人材などの財産を合わせることで、ひとつの大きな力となって、多様な里山活動を互いに支えながら、人や生き物にとってかけがえのない里山の環境を、未来に引き継ぐことを目的としています。

里山関係のイベント情報の発進や、里山活動をしたい人と、里山を活用して欲しい土地所有者を結ぶ「里山情報バンク」の仕組みをつくっています。

～ちば里山センターってこんなところ～

千葉県の里山団体（正会員73団体、賛助会員14名）に対して里山活動の支援として里山相談、各種講習会の実務、里山に関する理解と関心を深めるちば里山カレッジの開催、特に昨年度行われたチェーンソー作業リーダー養成講座「岡部塾」は大好評でした。

情報発信としては、HPにちば里山センターならびに里山活動団体のイベント案内や里山情報、ちば里山新聞等が掲載されています。



里山カレッジ



チェーンソー作業リーダー養成講座「岡部塾」

SNSでの発信として、Facebookではちば里山センターからと里山活動団体はちば里山 peopleにて発信されています。

HP:<https://chiba-satoyama.net>



取材：香山正幸（かやまん）

【北総エリア】

- ・ワイスノー・アウトドアスクール・NPO法人佐倉みどりネット・一般社団法人千葉県環境財団・千葉伝統郷土料理研究会・さんむアクションミュージアム
- ・一般社団法人千葉県観光公社・ヤックス自然学校・林造園土木株式会社・株式会社HMC東京旅行事業部・有限会社銚子海洋研究所・ピーちゃんクラブ
- ・ぬく森くらぶ・食と農の体験工房「よもぎ館」・国民宿舎サンライズ九十九里・「わたしの田舎」谷当工房・スコープジャパン株式会社
- ・ちば千葉国際コンベンションビューロー・東京クラシッククラブ

【上総エリア】

- ・Live Stock・環南みんなの楽校・上総自然楽校・千葉県立内浦山県民の森・NPO法人大山千枚田保存会
- ・NPO法人市津・ちはら台自然学校・特定非営利活動法人ちば里山センター・NPO法人里山会・株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

- ・一般社団法人森のようちえんはっぴー・NPO法人たてやま・海辺の鑑定団・岩井民宿組合
- ・白浜オーシャンリゾート・株式会社ちば南房総（道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富菜里とみやま）・千葉県立館山野鳥の森
- ・千倉町民宿組合・千倉オレンジセンター

**一緒に千葉を元気に
しませんか？
会員校募集中！**

【お問い合わせ先は裏面を
ご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

高田 拓実(たくやん) 千葉県立君津亀山青少年自然の家



千葉県出身。幼少より、自然の中で遊ぶことが大好きでした。
現在は、海、山、川でアウトドアを楽しんでいます。自然に入っていき事が、当たり前であった時代から、機会を作って接していく時代が変わってきていると思います。



外での活動だけでなく、室内では勾玉クラブなどもやっていますよ！

気の遠くなるような年月をかけて造られてきた自然には、未知の分野が沢山あります。だから、子どもはあれだけ生き生きとしているのだと思います。そういったきっかけ作りになれば嬉しいですね。

【資格】

- ・レスキューダイバー
- ・知的財産管理技能士 2級

【得意分野】

工夫して物を作る事

【好きなこと】

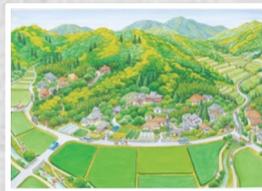
釣り/カヤック/旅行



千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ

- ・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- ・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

寄附団体ご紹介

- ・学校法人中村学園ハッピースイーツ製菓専門学校 様
- ・株式会社戸倉商店 様
- ・有限会社かしわや食堂 様
- ・株式会社富楽里とみやま 様
- ・林造園土木株式会社 様
- ・NPO法人国際自然大学校 様
- ・公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー 様
- ・有限会社原園芸 様
- ・スコープジャパン株式会社 様
- ・税理士法人 Tax ジャパン 様
- ・株式会社 HMC 東京 千葉営業所 様
- ・株式会社千葉薬品 様

他（順不同）

～ご寄付のお願い～

当法人の活動趣旨にご賛同いただいた企業・団体・個人の皆様からのご支援をお待ちしております。（一口3,000円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）

振替口座 00170-5-259431

加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校

※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。

【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号

【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

とくいていひえいりかつどうほしん ちばしぜんがっこう

特定非営利活動法人 千葉自然学校

理事長 久保田 康雄

※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。

発行：NPO法人 千葉自然学校

■千葉事務所 〒260-0015 千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7階

電話：043-227-7103/FAX：043-202-7237

ホームページ：http://www.chiba-ns.net メールアドレス：info@chiba-ns.net

